

ひょうごTECHイノベーションプロジェクト
ト
最終報告会



目指せ“除草”革命！道路や公園の隙間に生える厄介な雑草を根絶し、まちをキレイに！

課題地域：神戸市建設局 技術管理課
採択企業：小泉製麻株式会社

1. 課題（詳細）

隙間に生える雑草は刈払機による草刈をしても、一旦は表面的に雑草はなくなりますが、根まで除けていないので**草は再生し、年に何度も作業が必要**です。

更に、刈払機での草刈には飛び石の防止など安全管理に課題があります。

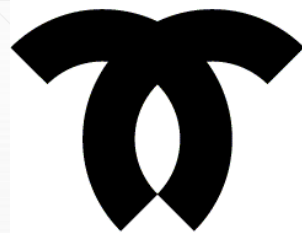
隙間の雑草の根をとる場合、**現在は人力作業しかなく**、非常に手間がかかります。生きている雑草の根を抜くのは難しく、ちぎれてしまうことも。（除草剤はSDGSの観点からも使用しません）

せっかく根までとつても隙間があると**種が飛んできて、違う種類の草が生え**てしまいます。しっかり雑草種子の侵入を防ぐ必要があります。雑草除根と隙間の間詰めを実施する場合の施工コストも課題です。

でも、たとえ初期投資が大きくても、数年程度メンテナンスフリーとなるのであれば、トータルコストが圧縮出来て本採用しやすくなります。

新工法の普及には、施工業者への周知と、仕様書、作業手順書、検査基準等の策定など、行政が業務として発注できる仕組みづくりが必要になります。

そこで、道路を含むインフラ箇所に発生する雑草の維持管理方法の選択肢を広げ、各々の場所や環境、目的にあった維持管理システムを確立していきたい



 小泉製麻株式会社

2. 結果

日本の多様な植生種に対して、泡状熱湯だけでは、満足な効果と評価は得ることが出来なかった。

要因① 1年生雑草（春種、夏種、秋種、周年） 多年生雑草（春種、秋種、周年）

要因② 種子栄養繁殖種、地下茎栄養繁殖種

要因③ 土壌へ熱還元（土壌硬土、水分、深土、狭部）

しかし

得るものが多くあった！

3. 得られたものの背景（企業側）

①英国の技術から日本の技術へ

- ・熱量コントロール
- ・吐出量コントロール
- ・添加剤の改良（泡立たすだけでない+α）

②コンビネーション技術

- ・熱湯技術と新しい材料

③雑草種の知識と雑草種の底力

④開発の意欲



3. 得られたものの背景（工法）

今までは・・・

対策① 夏先の草刈→冬の草刈のローテーション

対策② 夏（冬）先の草刈→例えば、防草シート

今回によって

①見えない部分（種子・地下茎の一部）の処理

②本施工の準備（清掃工としての草刈）

③本施工（資材）

①と②をしたことで、③の完成度・寿命が延長
→結果として、インフラライフサイクルコストの抑制

こんな場所でも手を抜かない姿勢

栄養根いっぱい

種子がいっぱい存在

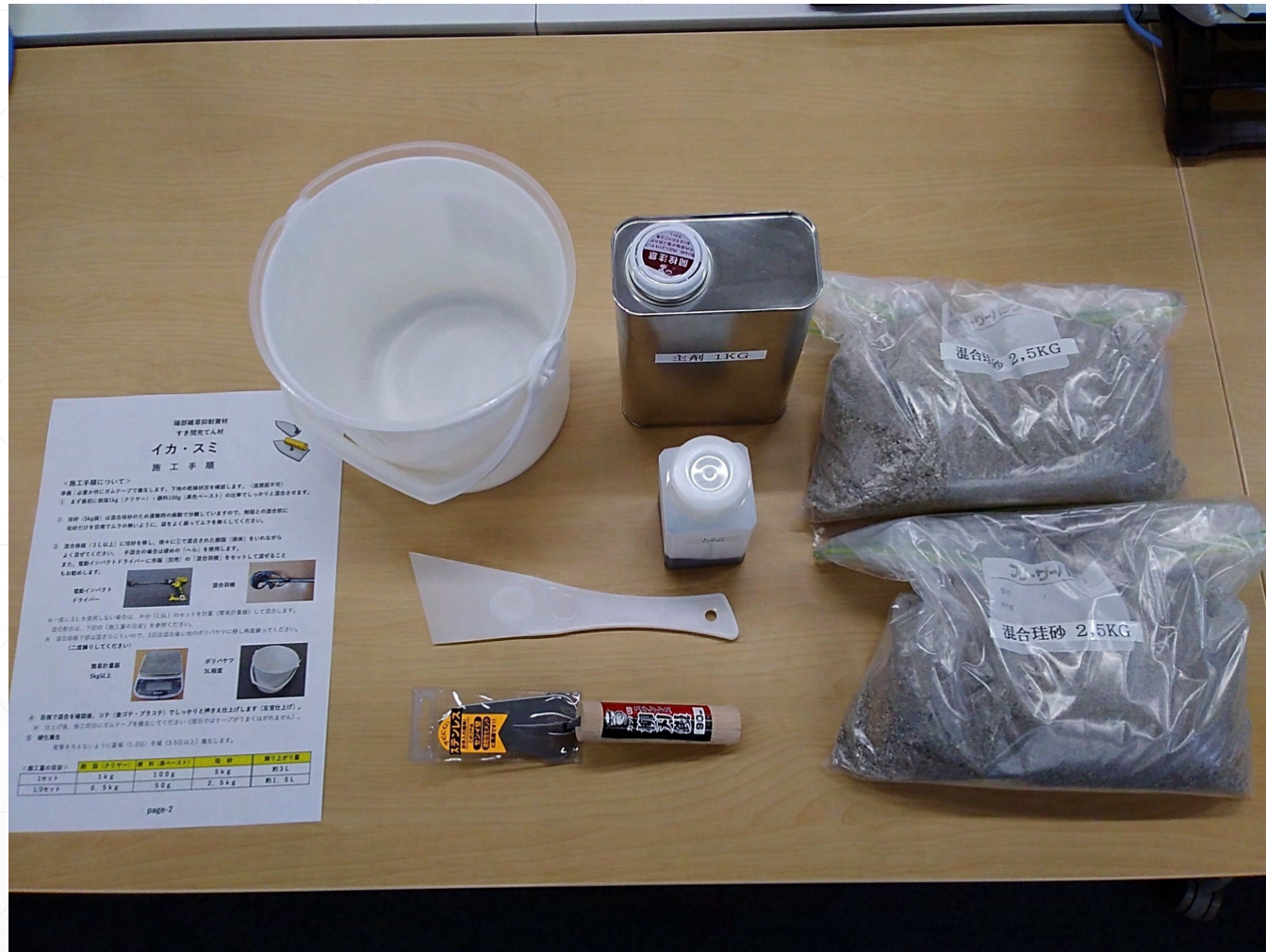
土に太陽光線がいっぱいで生長環境抜群

今までの管理方法では満足しない姿勢

単年度の計画ではなく複数年・複数箇所の提供

再生・更新に抜群の環境を作ってくれていた

イカ・スミ



＜イカ・スミ本体＞



＜目立たない施工箇所＞

本工法はまだ日本の環境に十分適用できていない中、神戸市建設局皆様、兵庫県阪神南県民センターのご担当者様のご協力のもと、地元兵庫県内での実証試験・検証が進められました事、感謝申し上げます。

ご清聴、ありがとうございました。



**KOIZUMI
GREEN
POLICY**

**2030年までに
私たちが取り組むこと**